# 殺人という名の仕事

ＳＩＢＡ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺人という名の仕事

【Ｎコード】

Ｎ５８１１Ｆ

【作者名】

ＳＩＢＡ

【あらすじ】

僕の仕事は殺人だ。しかし僕はお金に困ってない。そんな一人の人殺しのお話

# 僕の仕事

暗い路地の角、ただ息をひそめて待つ。
それは、獲物を狙う肉食獣のように、ただ
僕は待ち続けていた。

「さすがに１２月の寒空のなか待ち続けるのは辛いな。」
解りきったことを呟き、そして待ち続けた。
もう待ち続けて一時間が経過していた。
「そろそろのはず」
カツンカツンと足音がした。どうやらハイヒールを履いてるらしい。
僕はいつものように持ってきていた包丁を両手で握った。
足音が近づいてくる。
気がつかれないよう息をひそめて顔を少し出す。
予定どうり彼女だった。
再び道角に隠れ息をひそめ包丁を強く握る。
足音が大きくなる。
彼女が僕に近づいたのを確信して
僕は彼女目掛けて突進する。
彼女が僕に気づく、
しかし理解が出来ていないようだ。
彼女は悲鳴をあげるわけでもなく、逃げもしない。たぶん思考がついていってないのだろう。そんな
彼女に、僕は横向きにした包丁を胸に突き刺さす。
包丁は服を突き抜け皮膚を破り、肉を裂いて肋骨の間を突き抜け肺に甚大なダメージを与える。
「ごほっ」
彼女が赤黒い血の塊を吐く。
彼女が僕に何か話そうとするが、口から漏れるのはヒューヒューと

いう喘鳴音と血だけ。
やがて彼女が僕にもたれかかるように倒れた。
僕は彼女だったものから包丁を抜き、その場を後にした

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5811f/

殺人という名の仕事

2010年11月4日13時57分発行